

# EGCseries



EGC57-60EB

## ヘッド (Head)

カスタム特有の雰囲気はまず美しくバインディングされたヘッドから生まれるのだ。白黒6プライドで構成されたバインディングがヘッドを華麗に演出し、ヘッドストックインレイとバランスよく豪華な仕様となっている。ヘッドの角度は2タイプあり、EGC68-50、68-80は14°仕様で、EGC57-60、58-100が18°仕様になっている。



## ベグ (Complete Key Assembly)

チューニングには絶対の信頼感があるグレコオールドクルーソンゴールドタイプを使用。楽器の生命ともいえるチューニングもパーフェクト。華麗なEGCシリーズのヘッドにベストフィット。ホール加工もEGシリーズと共通の「ダブルシリンドラー加工」でガッチリとベグをホールド、ガタ、きしみのないスムーズなチューニングを可能にしたスペシャル仕様だ。

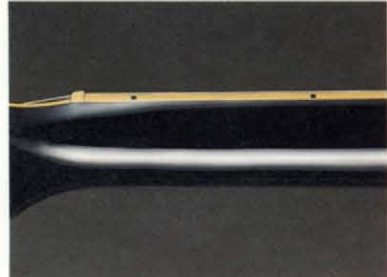


## シリアルナンバー (Serial Number)

シリアルナンバーは、EGシリーズのラバースタンプによる表示に対し、EGCシリーズでは彫刻印による明確な表示になる。場所はEGシリーズと共通でヘッド裏に押し込められている。

## ネック (Neck)

EGC68-80、EGC58-100には、EGシリーズ同様、音響特性、強度、耐久性とも優れたパーフェクトなマホガニー1ピースネックを採用。グリップは「43-53グリップ」でナットのところで43%、12フレットで52.5%幅のスリムネックでしっかりとキミの手になじむ事うけあいの極めつけた。ネックジョイントはEGシリーズの真で説明書の両面的な「L.A.C.ジョイント」をもちろんここでも採用。もうこれ以上のジョイント方法は、強度面、音響面の上から見てもないというグレコプロジェクトチームの自信作だ。フロントマイクを外してキミの目で他社のジョイントと見比べてほしい。



## 指板 (Fingerboard)

EGシリーズのローズウッドに対し、EGCシリーズでは、EGC58-100、EGC68-80には本黒檀(Ebony)を使用、EGC57-60、EGC68-50にはコストパフォーマンスを考えたローズウッドのエボニーカラー仕上げだ。EGシリーズ同様素晴らしい仕上げだ。そして指板の接着はグルー接着を採用している。音響的に見ても最良なことは言うまでもない。

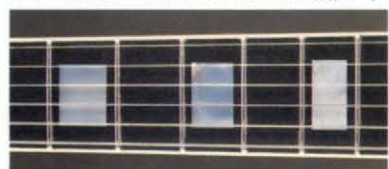
## フレット (Frets)

EGC58-100にはミディアムラウンドタイプを、その他の機種にはワイドオーバルタイプを使用。中でもEGC58-100はあの「フレットレスワンダー」を彷彿させるセミフレットレスワンダー仕様になり、ボディのマホガニー単板エボニーブラック仕上げ、指板の本エボニー、ゴールドパーツなどと共にある「ブラックビューティ」の誕生だ。



## ポジションマーク (Position Markers)

ポジションマークは白蝶貝のブロックタイプ (EGC58-100、EGC68-80) で本エボニーの指板にシャープに映える。特にステージ上での映えが最高でライトを受けた白蝶貝の輝きかなんととも言えなく素晴らしい。



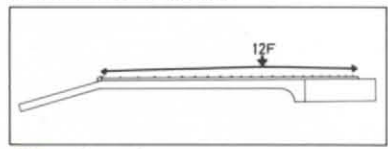
## サイドバインディング (Side Binding)

ヘッドストックバインディングからボディシェイプへ流れるようなラインはEGCシリーズ全機種に採用の2ピースサイドバインディングによるものだ。EGシリーズのセルよりもひと回り太いタイプを採用することにより、より華麗な雰囲気を与えることに成功、指板のエボニーブラックとのメリハリの効いたネックになっている。



## フレットファイリング (Frets Filing)

EGCシリーズ全機種にEGシリーズ同様、パーフェクトなファイリング方法である、「アップセットV」ファイリングを採用。詳細はEGシリーズの「フレットファイリング」の項を参照。



## ボディ (Body)

EGCシリーズ最高機種であるEGC58-100は、マホガニー単板の2ピースボディで、メイプルとはまた違った粘りのあるサステインが得られるスペシャルボディ仕様になっている。エボニーブラックにゴールドコートティッドパーツ、エボニー指板とまさに「ブラックビューティ」と呼ぶにふさわしいスペシャルスペックだ。EGC57-60はコストパフォーマンスを考えたマホガニー単板3ピースを採用。



## ボディバインディング (Body Binding)

流れるような美しいボディにバインディングされたセルには白黒6プライドの豪華なものを使用。EGC57-60、EGC58-100にはオールドの経年変化によるヤケ色をつけている。

## ピックアップ (Pickups)

マホガニー単板ボディのEGC58-100には、THE GROOVEを搭載。マホガニーボディの粘りのあるサステインに加え、THE GROOVEのクワイヤーでブライイトなサウンドだ。EGC68-80には新開発DOUBLE TRICKを、EGC57-60、EGC68-50にはSCREAMINをそれぞれ使用。持ち味をいかに発揮、ゴールドピックアップカバーに身を包んでハードなソロからジャジーなソロまでキミの思いのままのプレイに確実に答える頼もしいピックアップ達だ。



## エスカッション (Escutcheon)

EGシリーズ同様、底辺がほぼフラットなフロント1/4inch、リア1/4inchタイプのブラック仕様だ。ゴールドピックアップカバーとのカラーのバランスも絶妙だ。

## ピックアップホール (Pickup Hole)

ピックアップホールは、音響特性を考えた最少限のホール加工で豊かな響きのロングサステインのツヤのある音の影の立役者だ。このようにピックアップホール加工をはじめグレコプロジェクトチームは、目に見えない部分にこそ十分に研究開発を行なっているのだ。こういう努力がサウンドに大きく貢献していることは言うまでもない。

## コントロールノブ (Control Knob)

EGC57-60、EGC58-100には、フライングソーサーノブのブラックタイプを使用。EGC68-50、EGC68-80にはブラックソノブタイプを使用。どちらもプレイヤーの手にしっくりなじみ、微妙なコントロールにも適確に答えるノブだ。

## スイッチノブ (Switch Knob)

EGシリーズと共通のアンバーカラーも洗練された材質から形状までパーフェクトなスイッチノブを採用。(EGC57-60、58-100)

## スイッチプレート (Switch Plate)

材質、大きさ、厚み、ロゴともパーフェクトな仕上がりを見せるブラックにゴールドロゴのスイッチプレートで、スイッチ回りの完成度を高めている。

## ブリッジ (Bridge)

ブリッジはEGシリーズと同タイプのものを使用し、ゴールドコートティッドをほどこした豪華なものだ。もちろんサドルはブラス製でロングサステインも思いのままだ。詳細はEGシリーズの「ブリッジ」の項目を参照してほしい。

## テールピース (Tail Piece)

EGC58-100には、アルミダイキャストテールピースを採用。美しいゴールドコートティッドが、エボニーブラックのボディに映え、ライティングによってその美しさは増す。「ブラックビューティ」の再来と呼ぶにふさわしい風格だ。

## ストラップピン (Strap Button)

ストラップピンにはゴールドタイプを使用。ストラップをガッチリとホールドする頼もしいやつだ。

## カラー (Colors)

EGCシリーズには、EB、CRS、VS. を用意。詳しくはカラー欄を参照していただきたい。

## 良いギターには良いケースが付きもの、ケースだってミントが最高さ!

ギターの種類の多さもさることながら、ケースのバリエーションの量もモノスゴイ。ショルダーケースあり、ハードケースあり、そして極めつけがこのミントハードケースだ。外装は樹脂と特殊プライウッド成型による物で(内容については後述の「ゴカンベン!」)。人がその上で飛びはねてもビクともしない。その材料をケースの形に加工する事によりさらに強度が増すように設計されているのだ。内装も特殊な技術を独自で開発し、ギターにスタイルにフィットするようウレタンクッションが成型されている。そしてショッキングピンクのクロスも毛足の長さまでパーフェクトに再現。今までのケースの概念を変えたヘビーデューティなケースがミントコレクションケースだ。名づけてカリフォルニア・ガールズケース。なんとも悩ましいネーミングだ。

### ●EG-CAL・Girls Case ¥15,000

EGのカーブに合わせたアーチドトップケースで、耐加重100kgと、大人2名が乗ってもOKというたいした物。ブラウレンザーの外装にショッキングピンクの内張りというアーリー-50'Sそのものだ。

### ●SA-CAL・Girls Case ¥18,000

EG-CAL・Girls Caseと同仕様のSA用ケース。両者のケースに使用されているビスに注目。ケースに打ち込んだビスが壁にくい込むという特殊製法で、本体の特殊成型と相まって強力なケースだ。

